

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和5年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ）
指定管理者名	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設設置条例	相模原市立男女共同参画推進センター条例
施設の設置目的	女性を取り巻く諸問題の解決及び男女共同参画社会の実現を図るため（相模原市立男女共同参画推進センター条例第2条）
施設概要	（1）所在地 相模原市緑区橋本6-2-1（シティ・プラザはしもと内） （2）施設規模 シティ・プラザはしもと 5,090㎡のうち、男女共同参画推進センター 1,509㎡ （3）主な施設 セミナールーム1～6、情報コーナー、であいの広場等
施設所管課	市民局 人権・男女共同参画課

2 管理実績

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計（人）	83,884	81,265	69,903	20,132	54,522	43,003	51,221
使用料合計（円）	9,033,817	8,759,535	7,630,108	3,393,137	6,256,345	7,077,955	7,171,743
貸館率（％）	77.0	75.9	74.3	51.2	63.5	65.7	63.3
講座等参加者数（人）	13,171	12,646	10,608	669	3,628	4,028	6,809

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	≪評価理由≫ 施設の設置目的である「女性を取り巻く諸問題の解決及び男女共同参画社会の実現」に向けた取組を進めている。指標1の施設の貸館率は、目標値に達せず昨年度から約2.5ポイント低下し、達成度も90%未満であることから評価は「C」相当であり、指標2の講座等参加者の男女共同参画意識の高揚に繋がったと考える人の割合は、昨年度から約1ポイント低下したものの、目標値を上回り、達成度も110%以上のため、評価は「S」相当である。これら2つの指標の総合判断として「B」と評価した。 ≪委員会意見≫ 指標1と指標2を総合的に評価した場合、どちらの指標の実績値も昨年度より下回っているため総合して「B」評価とすることが妥当と考える。 男女共同参画意識の高揚に繋がったと考える人の割合が高いことは、施設の設置目的を果たすための取組を行ったと十分に評価できるものである。

指標1							
指標名（単位）	施設の貸館率（％）						
指標式と指標の説明	（１）指標式：施設の利用回数／施設の利用可能回数×100 （２）指標の説明：当該施設の活用が十分図られているかを見る指標						
項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	77.0	78.0	78.0	78.0	78.0	78.0	78.0
実績値（％）	77.0	75.9	74.3	51.2	63.5	65.7	63.3
達成度（％）	100.0%	97.3%	95.3%	65.6%	81.4%	84.2%	81.2%

指標2							
指標名（単位）	男女共同参画意識の高揚に繋がったと考える人の割合（％）						
指標式と指標の説明	（１）指標式：講座等の参加者アンケートにおいて、以下のすべての質問に肯定的な回答をした人数／アンケートの総回答人数×100 ・講座等に参加して、男女共同参画に関する理解が深まったか （⇒「大変深まった」もしくは「深まった」と回答した人数） ・講座等で得たことを、家庭・職場・地域等で活かそうと思ったか （⇒「はい」と回答した人数） （２）指標の説明：講座等参加者における男女共同参画意識の高揚及び家庭・職場・地域等への男女共同参画の推進を見る指標。						
項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	－	－	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
実績値（％）	－	－	74.5	80.8	83.7	79.7	78.8
達成度（％）	－	－	106.4%	115.4%	119.6%	113.9%	112.6%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	《評価理由》 通年で実施している講座、講演会等や市が定める男女共同参画推進週間に関連した事業数は増加し、自主事業において女性に限らず男性作家にも活躍の場を多く提供できたこと、インターンシップ実習生を積極的に受け入れ、若年層の意見を取り入れながら事業の企画を行ったことは評価できる。また、市民企画セミナーや相談支援を実施し、男女共同参画社会の実現を目指したセミナー・講演会等の企画・実施を希望する団体やグループに対し、運営支援ができたことも評価できるため、「A」と評価した。 一方で、登録団体が減少傾向にあるため、若年層の取り込みや活動支援等の充実により、登録団体の増加につなげていく必要がある。また、登録団体連絡会議を継続して開催し、団体同士の横の連携を促し、知見の広がりや深化を図る必要がある。 《委員会意見》 継続し安定して事業を実施しているほか、事業本数や講座の開催数の増加、大学生による企画事業を行い若者視点のアイディアを取り入れた事業の実施も評価できる。 女性への取組だけでなく、男性の地域参加を促進する事業を実施したことについても評価するとともに、更なる事業展開を期待する。

市が指定する事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
（なし）			

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
男女共同参画の普及啓発のための講座、講演会等の企画	通年	「第3次さがみはら男女共同参画プラン」に基づき、性別にかかわらず、すべての個人が互いに人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、講座等の企画・運営を行った。また、大学生1名のインターンシップ実習生を合計16日受け入れた。実習生による企画案を企画事業委員会で発表し、若者視点のアイデアを取り入れた市民向け講座の準備から運営まで事業実施をともに行った。 ■実施事業数：61本 ■講座等回数：160回 ■総参加者数：6,724人 ■参加率：78.6% ■男女共同参画意識の高揚に繋がったと考えられる人の割合：78.8%	◎
市が定める男女共同参画推進週間に関連した、男女共同参画意識の普及高揚を図ることを目的とした事業	6月17日(土)～6月25日(日)	多くの市民が男女共同参画について考える機会となるように、またソレイユさがみを広く周知するため、市が定めるさがみはら男女共同参画推進週間(6月17日～29日)に合わせてソレイユフェスタを開催し、パネルディスカッションやセミナー、パネル展示などを行った。 ■実施事業数：11本 ■講座等回数：13回 ■総参加者数：776人 ■参加率：78.5%	○
であいの広場におけるパネル展示	通年	身近な暮らしや社会に潜むジェンダーに関する様々な問題を取り上げた「なるほどジェンダー」パネル展示や「男女共同参画フォトコンテスト2023」入賞作品等の展示を通して、広く男女共同参画社会の実現への啓発を行った。 また情報コーナーにおいて「DVを学ぶパートナーに対する暴力をなくすために」や「介護について介護は一人で担うものではないですよ」の啓発掲示を行い市民の男女共同参画に関する「気づき」を促した。 ■パネル展示：2回(R5:6月から7月・R6:2月) ■情報コーナー啓発展示：2回(R5:4月・R6:2月)	○
その他男女共同参画に関する各種情報の収集と提供	通年	ソレイユさがみの活動内容や男女共同参画に関する啓発情報を発信するとともに、ブックレビューを発行し、新着図書やおすすめ図書の紹介を行った。 ■情報コーナーの利用 蔵書数 6,977冊：利用者数 1,099人 ■ホームページでの発信 ■ソレイユニュースレターの発行(1,000部×4回) ■ソレイユブックレビューの発行(850部×奇数月：年6回) ※11月にソレイユブックレビュー100号記念を発行 ■情報コーナー企画展示：2回(11月・1月)	○
市民企画セミナーの開催	通年	男女共同参画社会の実現を目指したセミナー・講演会等の企画、実施を希望する団体やグループに講師謝金を助成するとともに、会場の提供や運営支援を行った。 ■市民企画セミナー実施：3団体(4回) ■市民企画セミナー相談支援：9回	○

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
ソレイユマルシェ	展示：通年 販売：毎月1回 (6月は2回)	女性の起業・男性地域参画応援事業として、であいの広場に設置した展示棚を貸し出し、ハンドメイド作品の展示の場を提供するとともに、ソレイユマルシェを毎月1回開催し、販売やワークショップの場を提供した。 ■出店者：延べ311店舗（うち男性延べ7店舗） ■総参加者数：3,626人（女性3,478人、男性148人） ■ソレイユマルシェからの循環型サポート事業 ・ソレイユマルシェワークショップ（11回開催） マルシェに6回以上出店実績のある作家が講師となり、市民向けにワークショップを行う事業で、企画から開催まで職員がノウハウを支援した。 ・地域×ハンドメイド作家紹介 ワークショップ開催実績のある作家を、公民館に講師として活用していただくよう、チラシ等で地域へ紹介し、活躍の場を拡大した。	○

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	≪評価理由≫ 講座等参加者の満足度について、目標値を上回っているため、「A」と評価した。 また、誰でも意見投稿ができる「お客様の声」、セミナールーム等特定の施設を利用された方に必ず記入を求める「利用記録用紙」を用いて、利用者ニーズ等の積極的な把握に努めたほか、ホームページ上の「お問合せフォーム」により受付けた問い合わせに対して、迅速に返信し利用者の理解を深めていることは、評価できる。 ≪委員会意見≫ 高い実績を維持している点について評価できる。調査対象が施設内で開催される講座等の参加者に限られているため、回答者の年齢層に偏りがみられ、利用者が高齢者層に偏っているように捉えられる懸念がある。今後の事業展開を検討する際の基礎資料とすることも視野に入れ、小中学校等を対象に開催している出前講座等の若年層に対して行っている事業についても調査対象とするよう検討されたい。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	講座等の参加者に対してアンケート調査を実施 / 時期：通年 / サンプル数：916件（講師に関する設問のみ869件）
目標値の基準	講座等に対する全体評価、スタッフ対応、講師、環境について尋ねる各設問において、「大変満足」及び「満足」の割合の平均：90%以上

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（%）	—	—	90	90	90	90	90
実績値（%）	95.4	93.6	93.8	94.3	94.7	94.4	92.1
達成度（%）	—	—	104.2%	104.8%	105.2%	104.9%	102.3%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
お客様の声	通年	正面入り口前に回収箱を設置し、センター利用に係る意見・感想を求めるとともに、寄せられた意見等に対する回答や対応状況を掲出し、利用者に周知した。
利用記録用紙	通年	セミナールームやであいの広場利用者に対し、利用内容、利用人数等のほか、施設への意見や要望等を記載していただき、運営管理に役立てた。
ホームページ投稿通知メールフォーム	通年	「お問い合わせフォーム」により受付けた貸館や事業等についての問い合わせに対して、迅速に返信し利用者の理解を深めた。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	健全な財務状況を維持し、収益を出すための経費削減の姿勢を評価し「A」とした。昨年度の赤字収支から努力し黒字化したことも同様に評価する。講演会等の事業の運営経費のうち人件費について、本来的な市場価値という点で考えた場合は、財務状況、経営状況に若干留意する必要がある。

施設の収支概要		※直近3年間について記載		(千円)
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入（a）		32,026	27,801	26,284
	指定管理料	17,870	17,870	17,870
	利用料金収入	6,256	7,078	7,172
	その他の収入	7,900	2,853	1,242
支出（b）		28,404	26,354	25,077
	人件費	21,333	21,797	21,653
	本社管理経費	0	0	0
	その他の支出	7,071	4,557	3,424
本体事業収支【(a)-(b)】(c)		3,622	1,447	1,207
自主事業収入（d）		100	138	198
自主事業支出（e）		30	39	39
自主事業収支【(d)-(e)】(f)		70	99	159
全体収支【(c)+(f)】		3,692	1,546	1,366
備考				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について若干の懸念がある。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックシートに基づき、指定管理者へのヒアリング及び現地確認により検査を実施した。
実施時期	令和6年2月27日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

・成果指標である施設の貸館率は目標を達成できなかったが、講座参加者における男女共同参画意識の高揚につながったと考える人の割合は目標値を達成しており、前年度から引き続き高い評価を得ることができました。

・講座参加者の満足度については、全体評価として92.1%と高い評価であり、特にスタッフの対応についての評価が93.2%と高いことから、参加者の会場への誘導や受付対応などが評価されているものと考えております。一方、環境についての項目が90.1%との評価であり、冷暖房の室温や会場の照明についてが主なマイナス要因になっています。

・講座については、市民ニーズにあったものを多数開催できたと考えており、特にソレイユフェスタでは、参加率が100%となった「与良正男講演会」を開催し、政治に関心を持つ事の大切さや女性や若者が政治に参画することにより多様な意見を取り入れながら国民のニーズに合った政策ができることなどを分かりやすく解説していただき、意識啓発に繋がる講演会を開催することができました。

・市民企画講座については3団体から応募があり、4回開催しました。また、ソレイユマルシェ出店の作家が講師となり、市民向けワークショップを11回開催できたことなどから、管理運営コンセプトとした「ゲストからスタッフへ・参加から参画へ」の取り組みができたと考えております。今後は公民館などと連携し講師の紹介など、地域参画の場を広げる支援をしていきます。

・であいの広場のテーブルの配置替えやパーテーションを設置したことにより、「静かな環境で集中して勉強することができました」「いつも利用させていただきありがとうございます」と、高校生など多くの若者から感謝のコメントが寄せられております。若い方が当館を利用することにより、副次的に掲示物や展示コーナーなどで男女共同参画を知り意識の醸成が図られているものと考えております。

10 所管課意見

年間を通して様々な講座等を開催した結果、男女共同参画意識の高揚に繋がったと考える人の割合が目標の70%を上回り、施設の設置目的である「女性を取り巻く諸問題の解決及び男女共同参画社会の実現」に関して、大きく寄与しているものと評価できる。また、インターンシップ実習生による企画をソレイユフェスタで複数開催し、若年層の意見を取り入れながら事業の企画を行ったことや、市民が企画する男女共同参画セミナーを実施及び実施に向けた相談支援を行ったことについても評価できる。また、自主事業のソレイユマルシェにおいて、男性の参加の機会を確保したことも評価できる。

上記の理由に加え、引き続き高い利用者満足度を維持していることから、施設運営は適切に行われているものと評価する。引き続き質の高い講座等の実施を図るとともに、男女共同参画において「男性」へのアプローチについて引き続き工夫していただきたい。また、施設ホームページのウェブアクセシビリティに関する取組については、ホームページ利用者の利便性の向上につながる要素であるため、一部未実施部分について改善に向けた取組を進めていただきたい。

であいの広場の学生の利用が盛んであることから、そうした機会を捉え、若年層の取り込みや意識醸成につながれるよう工夫できるとよいと考える。

施設の経営状況については、経費削減により収益を出しており、健全と評価できる。今後は企画提案事業の規模拡大や自主事業の拡充等、指定管理者としてのノウハウを生かした新たな取り組みを期待する。

11 選考委員会意見

指定管理業務全般について、概ね良好と評価できる。

成果指標の達成度における男女共同参画意識調査については、利用者の意識高揚が一定の成果を維持している点について評価できる。根拠とするアンケートは、回答対象が限定されているため、出前講座等を実施している小中学生等にも調査対象を広げる等、幅広い年代に意見聴取ができるよう工夫されたい。

事業内容については安定した事業展開を行っており、利用者もコロナ禍以前の水準に向かって回復しつつある点も評価できる。男性をターゲットにした男女共同参画企画については、一つ大きな主軸となる事業を築いて欲しい。

また、防災分野における多様なニーズに適切に対応するためにも、日常生活の中で多くの役割を担っている女性の知識や経験を取り込めるような、防災に関する事業を提案いただきたい。

利用者層の拡大に向けては、高齢化がやむを得ない中、若年層や中間年齢層への働きかけも必要だが、学生と高齢層の連携等、高齢層と他世代交流を促すような取り組みも一つの方法だと考える。

経営状態について、努力と工夫により支出の削減に取り組んでおり、黒字化したことについて評価できる。ただし、講師等の人件費を本来的な市場価値で考えた場合は若干の留意が必要である。

以上を統括して管理体制は良好と評価できる。引き続き施設の利用者の意識高揚及び利用者拡大に尽力いただきたい。

総合評価（自動判定）

A

(70/100)

